



校庭に仮設校舎が増設される松井ヶ丘小学校



米澤 修司 議員
(民主党)



京田辺市甘南備園(左)と
枚方市東部清掃工場(右)の2本の煙突



府境に集中するな

次田 典子 議員

（無会派）

図 枚方市とのごみ処理広域化は現在の枚方市東部清掃工場とすべきであり、府境をはさんで47万人のごみを甘南備山麓に集中させるな。本市の水源地に有害物質を大量に埋めている問題も解決せず、当時の枚方市長が「埋め立ては負の遺産です」と言った経緯もある。本市は70トの炉で十分処理できるのになぜ200ト近くの炉を甘南備園の敷地に新設するのか。枚方市が東部清掃工場を建てる際、2003年に京田辺市長が枚方市長へ出した文書は「本市の既設ごみ処理施設に近い地での建設となり、年間を通じた風向き等を考慮すると、本市域の環境への過重な負担は避けられず」と書かれ、市民生活への影響や特産物のお茶へ

の風評被害にも触れられている。甘南備山近隣の100mの煙突による景観問題にも言及している。この流れの中からの両市ごみ処理広域化は新たな枚方市民の大量ごみの受け入れではなく、既設東部清掃工場で本市のごみを燃やすという申し入れのはずだ。現市長としての見解はどうか。

〔市長〕 市民を無視した形では行っていない。

問 女性や子どもの人権を守るために女性交流支援ルームの開設時間を伸ばし、相談員を増やすべきだ。

市民部長 考えていない。

市民部長
考えていない。

間 不登校児童生徒のためにも、府内に公立夜間中学校の開設をすべきだ。

〔教育長〕 国の方針でもあるので真摯に対応していく。

教育長 国の方針でもあるので真摯に対応していく。

図 三山小学校の整備は松井ヶ丘小学校校庭の拡張は

教育部長 三山小学校については、平成26年度から4年をかけて西校舎棟の建築をはじめ学校全体の整備を進めている。学級数は、26から30クラスを想定。児童数は、同志社山手地区の販売状況によって推移するので注視していく。松井ヶ丘小学校の児童数は増加傾向にあり、26年度には仮設校舎の増築を予定している。校庭は、体育館の活用なる

問 ごみ処理施設整備基本構想（案）について市長の考えは。

〔経済環境部長〕 パブリックコメントで、46人から意見があった。内容は、現在分析中である。その他プラスチック製容器包装類の新たな分別については、収集、運搬、中間処理等総合的に検討し進めたい。古紙回収などの集団回収は、市の人口の半分程度が参加している段階。集団回収と行政回収の併用も必要かと考える。一層のリサイクル率向上に向けた体制整備に取り組みたい。

市長 基本的には環境対策循環型社会の形成を重視。長期的、安定的な運営と経済性の観点から、今回の基本構想（案）で示している広域化は環境保全でむしろ優れていると判断している。



デジタル教科書を活用した授業風景 (市内中学校)



櫻井 立志 議員
(公明党)



建設を急ぐべき

水野 恭子 議員
(共産党)



建て替えが求められる中央公民館

問 9月に文化振興懇話会が開かれたが、文化振興計画策定の目標年次はいつか。

〔教育部長〕 平成28年度から10年間と考えている。

教育部長 平成28年度から
10年間と考えている。

■ 音響効果のある文化施設が必要であり、懇話会でも市長が先頭に立つべきと考える。他市の施設を借りなければならぬことについて、どのように認識しているのか。

〔市長〕文化とは、素晴らしい施設をつくったから良いのではなく中身だと考える。京田辺式文化というものを植え付けていきたい。

【教育長】 府下の広い地域で機会を与えられて発表するとは、素晴らしいことと考える。決して恥ずかしくない。

問 桃園小の学童保育について定員をはるかに超え、図

書室まで借りている状況をどう認識しているのか。空き地の利用で、新たな施設をつくるべきだ。

教育部長 学校施設の活用により対応できているものと考ええる。空き地については、学校全体としてどのような活用が必要か総合的に考える。

問 市民へ雨水タンク設置に対する補助をすべき。

経済環境部長 雨水利用の推進に関する計画を進める中で、支援も検討する。

■ 大住ケ丘五丁目、生協入口付近の歩道を改修しバリアフリー、グレーチングの改善、横断歩道の設置をすべき

〔建設部長〕 自治会と相談して進めたい。横断歩道は、歩行者のたまりスペースがなく設置は困難と府から伺った。

建設部長 自治会と相談して進めたい。横断歩道は、歩行者のためスペースがなく設置は困難と府から伺った。

オークや読書マラソン、様々なジャンルの本を読むことを目的としたブックビンゴなど工夫して取組んでいる。今すぐ「読書通帳」の導入は考えていない。

■ わがまち宗たなべの文化・歴史・産業などを幅広く学び知ることにより、ふるさとに愛着を深めるため、「子どもものしり博士検定」を実施してはどうか。

【教育部長】 学校教育において、副読本「わたしたちのまち京田辺市」を活用した社会科授業で、郷土を愛する気持ち育てる学習を実施している。この副読本を十分に活用しながら、子どもたちのふるさとへの愛着心を育んでいきたい。検定については、今後の参考にしたい。